

巖嶽神社の棟札

(4)

塩津の奥深い山中にあつた八

三社について

【巖嶽神社】 岩竹の表記も有

創建 文応元年(一二六〇)

祭神 木花之開耶姫命

棟札 五枚

【八幡宮】 文禄二年(一五九三)

創建 祭神 蒼田別命

棟札 十一枚

【白山大權現】

創建 不明

祭神 白山比売命

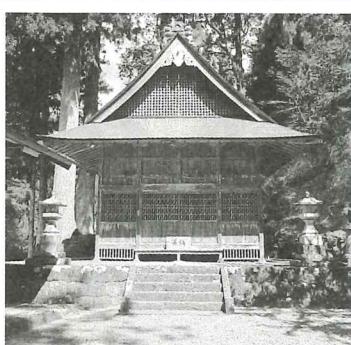
棟札 四枚

※他に合祀棟札一枚

この三社は、再建・修理など

が繰り返され、変遷を辿つて現

在に至つています。



巖嶽神社

二十一枚の棟札の内一番古い

棟札は、文禄二年(一五九三)の記載があり、新しいものは大正十三年(一九二四)の記載があります。棟札の表裏に記載がありが十三枚、表書のみ記載は八枚でした。また、長さ、幅、厚さ、材質等形状は様々で、記載内容も多種であり、統一された形式はありませんでした。

幡宮を訪れたことをきっかけに、清崎の小代地区の棟札を調べる機会に恵まれました。

巖嶽神社は、明治十二年(一八七九)に八幡宮、白山大權現とともに合祀されています。棟札は二十一枚あり、この管理・保管について地区の関係者の方々が検討されました。地区の戸数の減少が危惧され現物保管の他に、資料のデジタル化も含め、建設中の資料館に委ねることになつたようです。

幡宮を訪れたことをきっかけに、清崎の小代地区の棟札を調べる機会に恵まれました。

巖嶽神社は、明治十二年(一八七九)に八幡宮、白山大權現とともに合祀されています。棟札は二十一枚あり、この管理・保管について地区の関係者の方々が検討されました。地区の戸数の減少が危惧され現物保管の他に、資料のデジタル化も含め、建設中の資料館に委ねることになつたようです。

掲載棟札について(一例)
(表上部「、」の以字は、祈祷札や棟札に印され、福田寺のお札もあります。この印は諸説があり、真意は不明です。以字の間の文字は、梵字です。仏様を梵字一字で表す種子として用いられ、この例では、地蔵菩薩を表しています。この梵字は、「カ」)と読みます。

また、種子に用いられる梵字は四国八十八ヶ所巡りなどの納経帳や、宝篋印塔・卒塔婆にも使われています。

また、裏面の上の梵字は、

終わりに

二十一枚の棟札の内五枚は未

読で、課題としています。棟札から小代の先人たちが、崇め祀

り、寄付を募り、ひたすら願う

想いを連綿と受け継いできたこ

とを知ることができました。

資料を提供していただき、福

田寺様、古文書の読み取りに協

力くださった方々、地元の関係

者の皆様に感謝申し上げます。



裏面梵字

ボロン

シリ

諸仏一切結合の意を表し、「ボロン」と読みます。下の梵字は、「シ

(設楽町文化財保護審議委員
田邊 雅己)

田邊 雅己



正徳二壬辰歲

遷宮導師長江山普門院權大僧都法印本源

卯月吉祥日

神主 金田彦太郎

大工

卯月吉祥日

神主 金田彦太郎

大工

塩津村丸山彦左衛門

奉造立岩竹大明神宮殿一宇氏子繁昌祈所